参加者
ボランティア
募集中！

外国人にやさしい日本語を

くりやまにほんごクラスそら

外国人の居場所に

町内在住の外国人を「やさしい日本語」で支援する、「くりやまにほんごクラスそら」（萬美千代代表　以下「そら」）が活動の輪を広げています。

「やさしい日本語」は、１９９５年の阪神・淡路大震災で、緊急速報や避難指示が理解できず、多くの外国人が被災したことから生まれました。

在住外国人の国籍や母国語が多岐にわたる昨今、彼らの共通語となるのは英語ではなく、「やさしい日本語」です。

『そら』のメンバーは、昨年の「日本語学習支援者養成講座in栗山」で「やさしい日本語」を学んだ地元のボランティアです。実際にレッスンを見てみると、簡潔な表現で会話をしています。

今までのテーマは「防災」、「ごみ出し」、「病院へ行く」など生活に密着した話題です。

また、技能実習生として働く外国人は、職場と家の往復になりがちで、地域社会との関わりが希薄だという課題もあります。

「外国人も地域の一員。生活に必要な日本語を学び、楽しく自分らしく暮らしてもらいたい」と萬さんはいいます。

さらに、「やさしい日本語で、一人でも多くの日本人が、外国人に声をかけてほしい」と続けました。

『そら』は、会話を楽しみながら日本語を学び、地域参加する大切な居場所になっているようです。

参加者の外国人にとって『そら』は、会話を楽しみながら日本語を学び、地域参加する大切な居場所になっているようです。

■外国人にとってのやさしい日本語例

難しい日本語　高台に避難
やさしい日本語　高いところへ逃げてください

参加者・ボランティア募集

くりやまにほんごクラスそらでは、外国人の参加者、ボランティアスタッフを随時募集しています。興味のある方や事業所の方はお問い合わせください。

■現在の会員数　15人
■　〃　外国人参加者数　14人

【問い合わせ】☎090-9083-4972

Instagram

地域で輝く介護福祉学校と栗山高校に通う皆さんの様子をお届けします

北海道介護福祉学校×介護老人保健施設「ガーデンハウスくりやま」

実習を通じて、更なる飛躍を

左から：佐藤介護係長、菱谷介護リーダー、鈴木なぎささん
渡邉謙慎さん、村田介護員

5月から6月にかけて、ガーデンハウスくりやまで現場実習を行った鈴木さんと渡邉さん。週に1度は、職員と学生が打合せの場を設け、実習中に感じた疑問の解決や業務目的の確認を行います。

2人は、「利用者様の状態を考え、その人に合った支援を行うことの難しさを学んだ」「担当した利用者様との距離が縮まり、信頼してもらえていると感じた瞬間が一番うれしかった」と現場ならではの経験を通して、自らの成長を実感している様子です。

同校の卒業生でもある佐藤係長は、「学生たちも、私たちと同じ介護の世界に携わる仲間です。少しでも支えになることができれば」と想いを話します。菱谷さんや村田さんは、「実習中の経験や残した記録は、後の貴重な財産になる。人と密に関わることのできる仕事に喜びを感じてもらいたい」とエールを送りました。

学校祭準備中、誰でもウェルカムです！

田上（たがみ）　陽花（はるか）さん・**佐藤（さとう）　夏珠茄（かずな）**さん（栗山高校３年）

左から田上陽花さん、佐藤夏珠茄さん

今月5日、6日の学校祭に向けて、中心的な役割を担う生徒会長の田上さんと、生徒会副会長の佐藤さん。2日間行われる学校祭は、各クラスで企画された出し物や手作りの衣装を身にまとって踊る「エンタメ賞」など盛り沢山な内容です。

エンタメ賞の運営を行う田上さんは、「今は各クラスの企画内容を取りまとめています。当日の司会も担当するので緊張しますが今までの経験を活かして盛り上げていきたいです」とのこと。一方佐藤さんは、「私は閉祭式の準備や全体の装飾を担当しています。特に装飾は、会場が華やかになるようにと試行錯誤をしているところです」と話します。

2人に学校祭の見どころを聞くと、「一番は初日に開催されるエンタメ賞です。ペンライトなどを使用してライブ会場さながらの『非日常感』が味わえます」と声をそろえて答えてくれました。

「昨年までは、コロナ禍の影響で来場者が制限され、さみしい思いをしていました。今年は2日目のみですが、地域の方も来場可能です。ぜひ会場に足を運んで、楽しんでいただきたいと思っています。誰でもウェルカムです！」と満面の笑みを見せていました。